

## 地震・津波被害想定等検討部会(第4回)に対するご意見【高橋部会員】

## 議題1 地震・津波による被害想定について

【資料3 危険物タンクの津波による被害想定】

【資料4 危険物タンクの長周期地震動による被害想定】

○L2津波の波圧によるタンク移動及び内容量が上限の状態でのスロッシングにより求めた最大流出量は、実際には極めて起こる可能性は少ないものである。しかし、最悪の場合、この程度のリスクが存在するというのを伝えるためのもの。算出方法は妥当なものと考えられるが、この点を十分理解してもらう必要がある。

○津波被害シミュレーション結果及びスロッシングによる溢流量の算出結果をもとに、タンクの貯蔵量を自主管理することにより被害が低減できるよう、事業所に検討を働きかけるべき。

【資料5 短周期地震動に起因する災害のイベントツリー解析】

○想定災害は、どの程度低頻度のものまで取り扱うべきかという正解はないが、アセス指針はひとつの拠り所と考えられる。したがってアセス指針で示されている発生危険度(C( $10^{-4}$ ))までとすることで問題ないとする。

## 議題2 防災対策の方向性について

【資料8 基本目標(方針)案について】

○ハザード面は網羅されていると考える。現在議論されている強靱化の基本的な考え方には、被害最小化と迅速な復旧・復興の2つの側面がある。これらを目標に入れるならば、原案では迅速な復旧・復興の面がやや弱いと思われる。